

II 予算（人件費見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

財務諸表及び決算報告書により対応しますので、記載は不要です。

III 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1 短期借入金の限度額 12億円 2 想定される理由 運営費交付金の受入遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定されるため。	1 短期借入金の限度額 12億円 2 想定される理由 運営費交付金の受入遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定されるため。	なし

IV 重要財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
学生寄宿舍（洛西寮）の土地及び建物（京都府京都市北区大將軍坂田町22番）を譲渡する。	なし	平成23年3月31日付けで、学生寄宿舍（洛西寮）の土地及び建物（京都府京都市北区大將軍坂田町22番）の不動産交換契約を締結した。

V 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	なし

VI その他 1 施設・設備に関する計画

中期計画			年度計画			実績		
施設・設備の内容	予定額 (百万円)	財 源	施設・設備の内容	予定額 (百万円)	財 源	施設・設備の内容	予定額 (百万円)	財 源
小規模改修	総額 162	施設整備費補助金 () 船舶建造費補助金 () 長期借入金 () 国立大学財務・経営センター施設費補助金 ()	小規模改修	総額 27	施設整備費補助金 () 船舶建造費補助金 () 長期借入金 () 国立大学財務・経営センター施設費補助金 (27)		総額	施設整備費補助金 () 船舶建造費補助金 () 長期借入金 () 国立大学財務・経営センター施設費補助金 (26)
(注1)								
(注2)								

○ 計画の実施状況等

平成22年度独立行政法人国立大学財務・経営センター施設費交付事業として小規模当繕工事（防水改修、空調改修、外壁改修）を実施した。

Ⅶ その他 2 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
<p>(1) 教育研究の充実を図るため、戦略的な教員配置を推進する。</p> <p>(2) 教育研究の維持ある発展を図るため、優れた人材を確保する方策を実施する。</p> <p>(3) 教職員の資質向上を図るため、検収をより充実する。</p> <p>(4) 教職員の活動意欲の向上を図るため、職員の適性な人事評価を行い、給与等の処遇に反映する。</p>	<p>(1) 総人件費を抑制しつつ、教育研究及びその他の業務を更に充実するため、戦略的な人事配置を推進する。</p> <p>(2) 更なる女性職員の採用促進策の検討を行う。また、女性教職員の支援計画を策定するとともに、同計画に基づき可能なものから実行する。</p> <p>(3) 検収の充実を図るため、これまでに研修プログラムの検証・評価を行うと共に、自己研鑽の機会を積極的に提供するため、教職員の要望を調査する。また、若手委教員育成のため、海外の教育・研究機関に2名程度派遣する。</p> <p>(4) 教職員の活動意欲の向上を図るため、人事評価の改善を図りつつ適正に実施し、給与等の処遇に反映する。</p> <p>(参考1) 平成22年度の常勤職員数 461人 また、任期付き職員数の見込みを40人とする。</p> <p>(参考2) 平成22年度の人件費総額見込み 4,768百万円(退職手当は除く)</p>	<p>(1) 平成22年4月に設置したバイオベースマテリアル学専攻(部門)に、新たに学長裁量ポストを用いて教員1名を配置した。また、教育研究成果の評価に基づく教職員の配置について検討を進めた。さらに、第2期中期目標期間中における戦略的な人員配置を推進するため、同期間中の人件費試算を行った。</p> <p>(2) 平成21年度に実施した「男女共同参画推進のための教職員アンケート」の結果を踏まえ、人事委員会において女性教職員支援計画として「男女共同参画に向けた取組み」を策定した。また、同計画に沿って育児休業中の教員が担当していた科目への非常勤講師経費の特別措置、若手女性教員に対する研究費の支援及び教職員に対するベビーシッター育児支援補助事業を実施した。教員公募要領について、日本語版公募要領に加え、可能なものから英語版教員公募要領を作成した。</p> <p>(3) 教職員の要望を把握して自己研鑽支援策の検討を進めるため、教職員を対象にアンケート調査を実施した。また、「京都工芸繊維大学若手教員海外研究派遣プログラム」により、英国、オランダ王国及びフランス共和国の大学に、それぞれ1名の若手教員を派遣した。</p> <p>(4) 昇給及び勤勉手当に関し、それぞれ人事評価を実施し、その結果を反映した。</p> <p>(実績1) 平成22年度の常勤職員数 451人 うち任期付き職員数 36人</p> <p>(実績2) 平成22年度の人件費総額 4,522百万円(退職手当は除く)</p>

○ 別表（学部の学科、研究科の専攻等の定員未充足の状況について）

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b) / (a) × 100
	(人)	(人)	(%)
〈工芸科学部〉			
応用生物学課程	200	221	110.50
生体分子工学課程	200	221	110.50
高分子機能工学課程	200	231	115.50
物質工学課程	260	313	120.38
電子システム工学課程	240	298	124.16
情報工学課程	240	287	119.58
機械システム工学課程	340	404	118.82
デザイン経営工学課程	160	188	117.50
造形工学課程	500	570	114.00
学部共通（3年次編入学）	90		
〈夜間主コース〉			
先端科学技術課程	170	222	130.58
学士課程 計	2,600	2,955	113.65
〈工芸科学研究科〉			
応用生物学専攻	70	84	120.00
生体分子工学専攻	70	64	91.42
高分子機能工学専攻	70	88	125.71
物質工学専攻	90	114	126.66
電子システム工学専攻	60	77	128.33
情報工学専攻	60	89	148.33
機械システム工学専攻	80	110	137.50
デザイン経営工学専攻	28	41	146.42
造形工学専攻	50	66	132.00
デザイン科学専攻	28	34	121.42
建築設計学専攻	40	61	152.50
先端ファイブプロ科学専攻	44	80	181.81
バイオベースマテリアル学専攻	22	26	118.18
修士課程 計	712	934	131.18

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
〈工芸科学研究科〉			
生命物質科学専攻	54	49	90.74
設計工学専攻	30	37	123.33
造形科学専攻	24	47	195.83
先端ファイブプロ科学専攻	30	46	153.33
博士課程 計	138	179	129.71
専門職学位課程 計			

○ 計画の実施状況等